

新型コロナ危機 第2波への対策

保健所の体制強化、PCR検査拡大、 医療機関への財政的支援が必要です 松戸保健所長、 県医師会役員から伺いました



松戸保健所

加藤英雄県議（写真左）、みわ由美県議（同右）、山口正子松戸市議（同中央）は6月8日、松戸健康福祉センター（保健所）を訪ね、センター長らからPCR検査や感染防止のとりくみを伺いました。職員のマスクは自前。土日返上で、住民からの相談、PCR検査、陽性患者の入院調整、毎日の患者・濃厚接触者の確認などに忙殺されています。当初、感染者移送の専用車も用意されず、職員は一回ごとに保健所の車を消毒し、ビニールを貼り替え、防護服を取り換えるなど大変な労力を要しました。とりわけ人員不足は深刻で、他からきた応援は数日間で交代するため、継続的な業務はセンターの職員が担わざるを得ません。保健所体制の強化は待ったなしです。



県医師会

左から、加藤英雄、みわ由美両県議、浅野ふみ子、川副邦明両党副委員長

5月29日、県医師会と懇談しました。西牟田敏之理事は「ウイルスが想像を絶する速さで拡大し、医療物資の不足や医療機関の防護体制整備の遅れを招いた。保健所や医療機関の頑張りでも爆発的拡大を抑えられた」とのべ、今回の反省として、①医療機関への防護具などの供給が滞ったこと、②検査が受けられないなどの事態が生じたこと、③病床確保などで医療機関の経営を圧迫したことを指摘。「第2波への対応が第1波と同様では医療現場は疲へいます。保健所体制の強化、県と医師会との契約や民間検査会社への委託などでPCR検査数を増やし、医療機関への財政的支援が必要。県の支援を拡充してほしい」と強調しました。

6月県議会 請願締め切り 6月17日（水）午後5時